

主の二度目の、また目前に迫った来臨のために、  
主の委託において、また主の賜物において忠信に奉仕する

聖書：マタイ 24:45-51. 25:14-30

I. マタイ第 24 章 45 節から 51 節が啓示していることは、わたしたちが主の委託において忠信に奉仕し、神を食物として神の家族の者たちに与えなければならないということです。それはわたしたちが来たるべき王国において、キリストをわたしたちの褒賞として獲得するためです：

- A. 神は家庭、また家庭の行政、エコノミーを持っており、彼ご自身を食物として彼の家族の者たちに分与し、彼ご自身を表現させます—— I テモテ 1:4. 3:15. エペソ 2:19。
- B. 神は、忠信で思慮深い奴隷を彼ご自身の家族の上に立てて、家庭の管理者、執事、供給の経路とならせ、定められた時に彼の民に食物を与えさせました——マタイ 24:45. I コリント 9:17. エペソ 3:2. I コリント 4:1. I ペテロ 4:10. ピリピ 1:25。
- C. 「食物を与える」は、召会の中で、神の言葉とキリストを命の供給として、信者たちに供給することを指しています。キリストは命を与える霊として、わたしたちの食物であり、命の言葉の中に具体化され、実際化されています——マタイ 24:45. ヨハネ 6:57, 63, 68. 使徒 5:20. I ヨハネ 5:16 :
1. わたしたちが主をわたしたちの霊的食物として享受して、人を養うことができるようになるためには、彼の言葉を祈り、思い巡らさなければなりません。また、それを注意深く考慮することを通して、味わい、享受しなければなりません——エペソ 6:17-18. 詩 119:15. エゼキエル 3:1-4。
  2. わたしたちは祈りと言葉の務めに専心しなければなりません——使徒 6:4. II コリント 3:6, 8. ヨハネ 7:37-39. 参照、ヘブル 7:25. 8:2。
- D. わたしたちの心の中で、わたしたちの主人は来るのが遅れると言うことは、現在の邪悪な時代を愛して、主の出現を愛さないことです——マタイ 24:48. II テモテ 4:8, 10. 参照、使徒 26:16 :
1. わたしたちは、むさぼりに警戒して、自分のために宝を蓄えるのではなく、神に対して富まなければなりません——ルカ 12:16-21. II コリント 6:10. エペソ 3:8。
  2. 「ロトの妻を思い出さない」(ルカ 17:32) が意味するのは、神が裁き、完全に破壊しようとしている邪悪な世をわたしたちが愛すべきではなく、尊ぶべきではないということです。この事は、この世を愛する信者たちに対する厳粛な警告です——ルカ 17:28-32. 参照、ローマ 1:21, 25。
  3. わたしたちは目を覚まして祈り求め、主の来臨の日が畏のように、突然わたしたちに襲いかかることがないようにしなければなりません——ルカ 21:34-36. 参照、マタイ 2:3。
- E. わたしたちの奴隷仲間を打ちたたくことは、信者仲間を虐待することです——マタイ 24:49 前半. 使徒 9:4 :
1. わたしたちは自分の信者仲間を裁いたり、罪定めしたりしてはならず、彼らに対

して親切で情け深くあり、神がキリストにあってわたしたちを赦してくださったように、彼らを赦さなければなりません——ルカ 6:37. エペソ 4:31-32. 参照、I テサロニケ 5:14。

2. わたしたちは自分の兄弟たちをののしったり、批判したりしてはならず、彼らを自分自身よりすぐれていると思わなければなりません——II テモテ 3:1-2. I ペテロ 3:8-10. ユダ 10 節. I コリント 6:9-10. ピリピ 2:2-4, 29. ローマ 12:3 :

a. ののしることは、わたしたちが聖徒たちの内側に苦痛を引き起こすこと、あるいは、口汚い言葉で聖徒たちを激しく責め立て、また批判することによって内側を傷つけることです。

b. 主の方法は、わたしたちの傷に包帯をする（わたしたちをいやす）ことと、油とぶどう酒を注ぐ（聖霊と神聖な命をわたしたちに与える）ことです——ルカ 10:33-34。

c. 召会が分裂し、損失を被る理由の一つは、ののしる言葉があるからです。ののしる言葉を聞く人は、ののしる言葉を語る人と同じ責任を負います。召会が一を維持するために、わたしたちはののしる言葉に抵抗しなければなりません。

d. 罪に対する感覚は、神を認識することから来ます。同様に、ののしる言葉に対する感覚は、からだを認識することから来ます。ののしる言葉は、からだの証しに相反します。

e. ののしる者が、次の時代において、勝利を得る聖徒たちに対する褒賞としての神の王国を継ぐことはないという警告を、主はわたしたちに与えています——I コリント 6:10。

3. わたしたちは、わたしたちの信者仲間の上に権力を振るってはならず、奴隷として彼らに仕え、命を与える霊としての復活したキリストをもって彼らを養わなければなりません——I ペテロ 5:3. マタイ 20:25-28. 参照、民 17:8。

F. 酔っ払いどもと食べたり飲んだりすることは、この世的な事柄で酔っ払っているこの世の人と付き合うことです——マタイ 24:49 後半. 参照、エペソ 5:18 :

1. 信者たちの神聖な性質と聖なる立場のゆえに、彼らは未信者と共にくびきを負うべきではありません。この事は、結婚また事業だけではなく、信者と未信者との間のすべての親密な関係に適用されるべきです——II コリント 6:14. I コリント 15:33. 参照、箴 13:20。

2. わたしたちは若い時の欲から逃れて、純粋な心で主を呼び求める人たちと共に、すべてを含むキリストを追い求めなければなりません——II テモテ 2:22。

G. 王国の実現において、忠信で思慮深い奴隷は、支配する権威を褒賞として与えられます。ところが、邪悪な奴隷は、栄光のキリストから、彼の王国の栄光から、彼の王国にある彼の栄光の臨在から断ち切られます——マタイ 24:47, 51。

II. マタイ第 25 章 14 節から 30 節が啓示していることは、わたしたちが主の賜物において忠信に奉仕し、彼のために利益を得なければならないということです。それはわたしたちが来たるべき王国において、主の喜びの中に入るためです :

A. 主はご自身を、外国へ（天へと）行こうとして、自分の奴隷たちに自分の財産を渡す人にたとえました。「自分の財産」は、召会（エペソ 1:18）とすべての信者を表

徴しており、彼らは神の家族を構成します（マタイ 24:45）。

- B. 主人は、彼の奴隷たちのある者に五タラント、ほかの者に二タラント、ほかの者に一タラントを、それぞれの能力にしたがって与えました——マタイ 25:15 :
1. タラントは、霊的な賜物（霊的な技能と能力）を表徴します——ローマ 12:6. I コリント 12:4. I ペテロ 4:10. II テモテ 1:6.
  2. キリストのからだのすべての肢体は賜物を持っており、またすべての者が賜物です——ローマ 12:6 前半. エペソ 4:7-8.
  3. 「それぞれの能力」は、わたしたちの天然の能力を表徴しており、それは神の創造とわたしたちの学びから構成されています——マタイ 25:15. 参照、使徒 7:22 :
    - a. 天然の力と能力は復活の中で、わたしたちが主に仕えるために、有用となります。それは、わたしたちを柱とならせ、また柱を建造する者とならせて、神の永遠の定められた御旨を成就するためです——I コリント 15:10, 58. 参照、II コリント 6:1-2. 列王上 7:13-22 とフットノート. エペソ 4:8, 11-12, 16. ガラテヤ 2:9. 啓 3:12.
    - b. モーセ、ペテロ、パウロの天然の能力は、十字架を通過して、復活の中で出て来て、主によって用いられ、主のからだを建造しました——使徒 7:22-36. ルカ 22:32-33. I ペテロ 5:5-6. 使徒 22:3. ピリピ 3:5-8, 14. ガラテヤ 2:20. II コリント 4:10-12. II テモテ 2:11.
- C. タラントで商売をするとは、主がわたしたちに与えてくださった賜物を用いることを表徴します。ほかのタラントをもうけるとは、わたしたちが主から受けた賜物が最大限に用いられて、何の損失も浪費もないことを表徴します——マタイ 25:16-17. I テモテ 4:14. II テモテ 1:6. 4:5 後半。
- D. 五タラントと二タラントの者とは対照的に、一タラントの者は立ち去って地を掘り、主人の銀貨を隠しました。この事が表徴するのは、主の賜物を用いなくて、人々を救わず、主の豊富を彼らに供給しないことです——マタイ 25:18, 27 :
1. 地はこの世を表徴します。こういうわけで、「地を掘り」とは、この世とかわりを持ち、わたしたちが主から受けた賜物を埋めることを表徴します。
  2. 「主人の銀貨を隠した」とは、主の賜物を無駄にし、地的な口実の下にそれを荒廃させることを表徴します。主の賜物を用いなくてのような口実も、賜物を隠すことです。
- E. 主人が邪悪で怠惰な奴隷に言っているのは、彼が主人の銀貨を両替人たち（銀行）に預けておくべきであったということです。そうすれば、主人は帰って来た時、利子と共に彼のものを受け取ったでしょう——マタイ 25:27 :
1. ある意味で、両替人たち（銀行）はみな、救われたばかりの人、若者、後退した人たちであると言ってもよいでしょう。わたしたちが自分のタラントを用いる最上の方法は、人を顧みて、人に興味を持ち、人のために関心を持って、キリストを人の中へと分与することです。
  2. わたしたちはだれを顧みるべきかに関して主と時間を費やして、主に開くとき、主はわたしたちに負担を与えます。わたしたちは、主と一になって、主の臨在をもって人をはぐくみ、主の豊富をもって人を養うことによって人と接触し、人と

交わるとき、自然に自分のタラントを用いるようになります。

3. 次に、主は帰って来た時、利子と共に彼のものを受け取ります。利子は、わたしたちが主の賜物を用いて、主の働きのために得る有益な結果です。
- F. 主は帰って来た時、わたしたちと清算をします。この事が表徴するのは、空中における（パルシーアの期間）、主の裁きの座（Ⅱコリント 5:10. ローマ 14:10）での主の裁きです。そこにおいて、信者たちの生活、振る舞い、働きは裁かれ、褒賞を得るか、あるいは懲らしめを受けます（Ⅰコリント 4:5. マタイ 16:27. 25:19. Ⅰコリント 3:13-15）。
- G. 主の褒賞は、わたしたちの働きの大きさと量と関係があるのではなく、わたしたちが最大限に主の賜物を用いることにおいて忠信であることと関係があります。キリストご自身が、わたしたちにとっての褒賞としての命の冠、義の冠、栄光の冠であって、わたしたちは来たるべき王国において彼を享受します——マタイ 25:23. 啓 2:10. ヤコブ 1:12. Ⅱテモテ 4:8. Ⅰペテロ 5:4。
- H. 来たるべき王国において、主の賜物は怠惰な信者たちから取り去られます。そして彼らは外の暗やみに放り出されます。しかし、忠信な信者たちの賜物は増し加わり、彼らは彼らの主人の喜びの中に入ります（マタイ 25:21, 23）。主の喜びにあずかることは、王国における栄光と地位にまさった、最大の褒賞です——マタイ 25:21, 30。